

<英文法超基礎(53)> Lv.★★☆☆☆ 対象:中2~

① 不定詞とは

以後「to V」と表記します!

(1.)で表されるカタマリを不定詞・to不定詞という。

→ (2.)・(3.)・(4.)のどれかの働きをしながら、動詞の働きをするという「一人二役」的なイメージ!

< To speak English > is difficult. 「英語を話すことは難しい」
S & (V) (O) V C

< >はSの働きをして、speakは「話す」というVの働きをしている!

② 不定詞の名詞的用法

「to V...」が(5.)のいずれかになってる! → 「6. 」と訳す!

① < To teach English > is my job. 「英語を教えることが私の仕事だ」
S & (V) (O) V C

→ "to teach English"がisのSとなっている!

② I like < to play tennis >. 「私はテニスをするのが好きだ」
S V O & (V) (O)

→ "to play tennis"がlikeのOとなっている!

③ My dream is < to become a doctor >. 「私の夢は医者になることだ」
S V C & (V) (C)

→ "to become a doctor"がisのCとなっている!

③ 形式主語構文

「to V~」が文の(7.)になるとき、(8.)を文頭に置いて「to V~」を後ろに回すことがよくある! この8を形式主語[仮主語]といい、後ろに回った「to V~」を真主語と呼ぶ!

To study English is important.

→ It is important to study English.

「英語を勉強することは大切だ」

<形式主語構文>

It is ~ to V: 「9. 」!

4 不定詞の形容詞的用法

(10.)の形で後ろから名詞を修飾する形容詞の働きをする!
→ 「11. 」 「12. 」と訳す!

We want something [to drink]. 「私たちは飲むための何かがほしい」
= 何か飲み物
S V O

They need a house [to live (in)]. 「彼らは住む家を必要としている」
↑ 「in a house」の「a house」が前に出る仮-ジ!
S V O

5 不定詞の副詞的用法

「to V～」が副詞のように (13.)を修飾する用法が副詞的用法!
→ さまざまな意味があるので、その形や文脈で判断する!

① 目的を表し、 「14. 」と訳す!

I went (to the shop) (to buy a bag). 「カバンを買うためにその店へ行った」
S V

→ (15.)・(16.)で表されることも多い!

② 「(17.)を表す形容詞 + to V」で感情の原因を表し、 「18. 」と訳す!

I'm happy [glad] (to meet you). 「あなたに会えてうれしい」

他にも、(19. 驚く), (20. がっかりする), (21. 残念だ) などがある。

③ 結果を表し、 「22. 」と訳す! ←よく出る形を覚える!

• He grew up to be a famous actor. 「彼は成長して有名な俳優になった」

(23.): 「24. 」

• She lived to be ninety. 「彼女は90歳まで生きた」

(25.): 「26. 」

• I woke up to find myself on the bed. 「目覚めるとベッドにいた」
(27.): 「28. 」